

授業概要

平安時代から鎌倉時代への移行期を生きた女性の作品『建礼門院右京大夫集』を講読する。はるか昔、激動の時代に翻弄された女性が自分の人生を作品化したもので、そこに記される輝かしかった過去や絶望の日々は読者を圧倒する力を持っている。過去の出来事を選んで残すということは、忘れることができない、記さずにはいられなかった思い出が集められているということである。残された思い出をたどることで、彼女の人生を追体験しよう。

特に「建礼門院右京大夫」という呼び名は彼女が主体的に選んだ名であり、なぜその名を残したのか、そこにはいかなる思いがこめられているのか、読み取ってもらいたい。

授業計画

第 1 回	時代背景と歌集についての概説
第 2 回	素晴らしき時代の回想
第 3 回	貴公子との交流
第 4 回	楽しい行事の思い出
第 5 回	若き日の色事
第 6 回	中世和歌の基本的な約束事
第 7 回	平家栄光のかげり
第 8 回	前半のまとめ
第 9 回	絶望の騒乱
第 10 回	聞きたくなかった報
第 11 回	深い悲しみ
第 12 回	公的な場への復帰
第 13 回	歌風と同時代の評価
第 14 回	その名を残す意味
第 15 回	総まとめ
第 16 回	定期試験

到達目標

- ①詞書・歌について語法に注意しつつ読解する。
- ②一人の人間の人生を作品化する時、どのような情報が選択され、何を伝えようとしているのか読み解く。
- ③現代に伝わる呼び名が彼女にとってどれほどの重みを持っていたのか考える。

履修上の注意

古典についての知識が無くても問題ないが、作品に向き合ってもらうために指名して質問することがある。自分の意見を述べてもらいたい。第 8 回・第 15 回には、まとめの後に簡単なディスカッションを行う。

予習・復習

ノートをしっかりととり、ディスカッションの際に発言できるように準備してほしい。

評価方法

授業への参加度（40%）・定期試験（60%）の結果によって判定する。授業への参加度については、ディスカッションを中心に、授業中の発言内容や積極性を重視する。

テキスト

- ・教科書名：建礼門院右京大夫集 全訳注
- ・著者名：糸賀きみ江訳注
- ・出版社名：講談社学術文庫